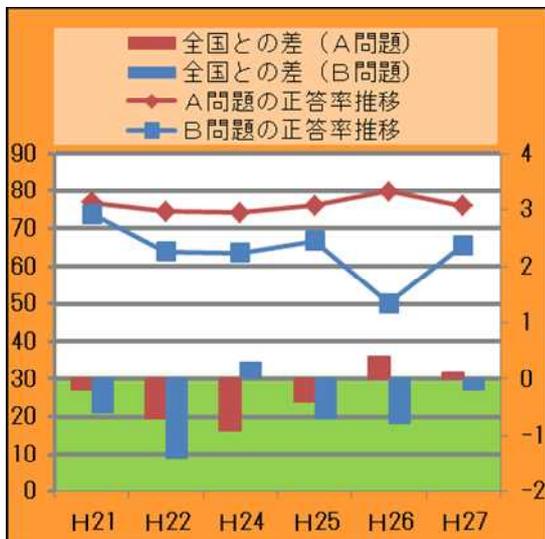


平成27年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 結果のポイント



中学校：国語A		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	78.4	79.7	-1.3	
書くこと	73.4	73.6	-0.2	
読むこと	86.8	86.1	+0.7	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.2	72.9	+0.3	
全体	75.9	75.8	+0.1	

中学校：国語B		平均正答率(%)		
領域	大分県	全国	差	
話すこと・聞くこと	71.1	72.2	-1.1	
書くこと	35.7	36.7	-1.0	
読むこと	62.8	62.6	+0.2	
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
全体	65.6	65.8	-0.2	

中学校：国語A

全問題数：33問（選択式23問・短答式10問・記述式0問）

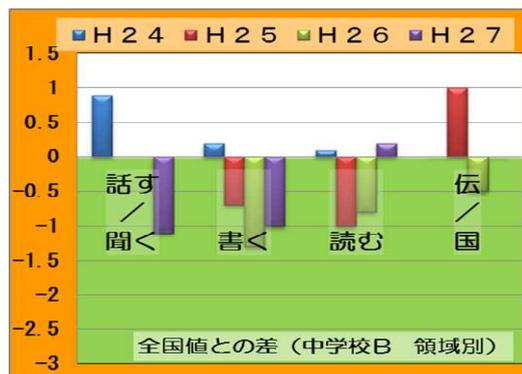
- 平均正答率 75.9%（選択式 75.8%・短答式 76.2%）で、平成26年度に比べ下降したが、全国値を0.1ポイント上回った。
- 「読むこと」領域、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国平均正答率を上回った。
- 「話すこと・聞くこと」領域は、正答率が78.4%と全国平均正答率を1.3ポイント下回っている。



中学校：国語B

全問題数：9問（選択式6問・短答式0問・記述式3問）

- 平均正答率 65.6%で、平均正答率は上昇したものの、全国値を下回った。また、領域別に見ると「読むこと」領域以外は、全国値を下回った。
- 記述式の3問中、平均正答率については全ての設問で全国値を下回り、無回答率については全国値に比し悪かったのは1問である。



中学校：その他

- 国語A・国語Bとも正答率が全国平均以上の児童は53.3%（前年度44.3%）、国語A・国語Bとも平均未満の児童は24.8%（前年度33.0%）であった（全体として底上げ）。
- 生徒質問紙「調査問題の解答時間は十分でしたか」で「余った」と答えた生徒の割合は全国値より低く、「ちょうどよかった」と答えた生徒は全国値より高かった。D層で時間があまった生徒の割合は小学校時より増えている。

2 課題が見られた問題と指導改善のポイント

中学校：国語A

(1) 話すこと・聞くこと

①聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す<指導事項・話すこと・聞くこと1年ウ>

A四二 (正答率64.3%・全国65.0%)

- 発表や報告などをするとき、聞き手の反応を踏まえながら話すことが重要。本問では、使用する語句について、聞き手の反応から、内容を付け足したり、分かりやすい語句に言い換えたりすることを求めている。
- 正答の条件は、①「成否」を分かりやすい表現に直している、②「この企画が」と「は彼のさじ加減一つで決まる。」に適切に続くように十字以内で書いている、の二点であるが、①ができていない生徒が16%であった。国語辞典では

成否 ①事が成ることと成らないこと。
②成功するか失敗するか。

となっているので、そのことを踏まえ、聞き手が分かりやすい言葉を選択することが重要である。

- スピーチをする際には、聞き手にとって分かりやすい言葉を選択して話すことが大切で、そのため、聞き手の反応を踏まえ、言葉を言い換えたり、説明を加えたりするように指導する必要がある。また、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)の「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」と関連付けて、語感を磨き、語彙を豊かにするように指導することが大切である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」24～27 ページ

(2) 書くこと

①伝えたい事実を明確に書く<指導事項・書くこと1年ウ>

A四一 (正答率67.8%・全国67.6%)

- 資料を活用して伝えたい事実を書くことは、考えを的確に伝えるために大切な能力である。本問では、グラフから分かる情報を整理して、簡潔な言葉で説明することを求めている。
- 棒グラフの[]の部分は「65歳以上人口」を示すもので、その数値がどうなっているのかを述べる。その際、【田村さんが書いた文章】を参考にして、明確に書く必要がある。
- 正答の条件は、①棒グラフのの部分の変化について適切に取り上げて書いている、②【田村さんが書いた文章】の書き方を参考にして、十五字以内で書いている、の2点であるが、②を満たしていない生徒が12.2%であった。また、無解答率は4.4%で全国値(4.2%)を上回った。
- 正答の求め方は次のとおり。

二 石川さんは、リハーサル後に友達から、場面①の「成否」の意味が分かりづらいので、聞いて分かりやすい表現に直した方がよいというアドバイスを受けました。どのような言葉に直すか、次の[]に当てはまる言葉を十字以内で書きなさい。

この企画が [] は、彼のさじ加減一つで決まる。

場面①
1 石川さんは、調べた言葉についてスピーチをします。次は、リハーサルの様子の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。()の中には、頭の中で考えていることを表します。

場面②
私は、「さじ加減」という言葉を使いました。さじ加減は、もともと音量の分量を調節することを表す言葉ですが、次のような使い方をします。

場面③
使った方として、例えば「この企画の成否は、彼のさじ加減一つで決まる。」のように言います。

石川さん
「さじ加減」の意味が分かりづらいよ。うだね。

石川さん
「さじ加減」とは、スピーチの音量のことです。料理番組で、大きく、小さじという言葉を聞いたことがあると思います。

石川さん
「さじ加減」とは、スピーチの音量のことです。料理番組で、大きく、小さじという言葉を使っています。

石川さん
「さじ加減」とは、スピーチの音量のことです。料理番組で、大きく、小さじという言葉を使っています。

- ①・この部分は何を対象にしているか。
→65歳以上の人口
・それがどうなっているか。
→増加している
- ②・いずれも「〇〇が△△していく。」
という書きぶりである。
・〇〇には人口、△△には増減について述べる言葉が入る。

解答

65歳以上の人口が増えていく

- ・説明や記録の文章を書く際には、
 - ①目的に応じて図表から必要な情報を取り上げること
 - ②取り上げた情報について適切に記述することの2点について丁寧に指導することが大切である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」34～35ページ

4

次は、西暦二〇〇年以降の「日本の人口推移を表したグラフ」（予想を含みます）と、それを見て分かったことについて「田村さんが書いた文章」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

「田村さんが書いた文章」

「田村さんが書いた文章」

まず、棒グラフを見て分かることが四つある。

- ・二〇一〇年以降、総人口が減っていく
- ・十四歳以下の人口が減っていく
- ・十五〜六十四歳の人口が減っていく

そして、折れ線グラフから、高齢化率が上昇し続けていくことが分かる。二〇四〇年には、二〇一〇年の二倍以上になっていると予想されている。

□には、棒グラフの□の部分の変化を読み取った内容が入ります。□に当てはまる言葉を、「田村さんが書いた文章」の書き方を参考にして、十五字以内で書きなさい。

②伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く<指導事項・書くこと2年ウ>

A7-1 (正答率66.4%・全国66.4%)

- ・平成25年度国語A3-2「文の接続に注意し伝えたい事柄を明確にして書くこと」（正答率49.6%）に課題が見られたことを踏まえての出題。
- ・正答の条件は、
 - ①【要望】から「放課後も花壇に水やりを行ってはどうか」という内容を取り上げて書いている。
 - ②「という要望について回答します。」に適切に続くように十八字以内で書いている。
- ・①を満たしていないものが23.3%であった。
(誤答例)
 - 放課後にもしてほしい。
 - …「何をしてほしいかわからない。」
 - 毎朝の花壇の水やりだけでは足りない。
 - …「具体的な方策が書かれていない。」
- ・投書に対する回答や、メールの返信な

7

次は、美化委員会に対して寄せられた「要望」と、美化委員会が掲示板に掲示する予定の「回答A」、「回答B」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

「十八字以内」という条件

□に当てはまる適切な言葉を十八字以内で書きなさい。

【要望】

美化委員会へ
美化委員会に要望があります。
現在、美化委員会では毎朝花壇に水やりを行っています。
それを、放課後も行ってはどうでしょうか。これからの時期は暑くなり、朝の水やりだけでは足りないと思います。
ぜひ、検討してください。

【回答A】

委員会で検討したところ、「指摘はもっともだ」、「放課後も部活動に出るのでできない」など、意見が出されました。その結果、難しいので、結果として募集しませんでした。

【回答B】

委員会で検討した結果、「委員だけで放課後に水やりを行うことは難しい」ということになりました。そこで、生徒の皆さんからもボランティアを募集して、放課後の水やりを行うことにします。
話し合いの中では、「指摘はもっともだ」という意見もあった一方で、「放課後は、委員も部活動に出るのでできない」という意見が出され、このような結論になりました。
美化委員長 小林 太郎

書き手が考えている美化委員会にして欲しいことは何か、という視点で要約する。

どの文章を書く際には、読み手が求めている事柄を的確に捉え、必要な情報を過不足なく書く必要がある。その際、目的や読み手によって、言葉の選び方等について工夫するように指導することが大切である。

- ・指導に当たっては、メールのやりとりなどの場面を取り上げて、双方向的な文章を書く学習活動が考えられる。また、平成25年度授業アイデア例（P.13～14）等を参考にすることも重要である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」41～43ページ

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項

①表現の技法について理解する／＜指導事項・伝・国1年(1)イ(オ)＞

A3一

線部①「どてをぐるっとまわって、どンドン正門をはいって来ると」とありますが、ここでの表現の工夫として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1	擬態語が用いられている。	・・・	59.5%
2	倒置法が用いられている。	・・・	14.7%
3	体言止めが用いられている。	・・・	13.4%
4	直喩が用いられている。	・・・	12.1%

- ・平成24年度A3二「比喩という言葉と結び付けて表現の仕方を理解すること」（正答率43.0%）、平成26年度国語B1一「表現の技法について理解していること」（正答率66.0%）に課題が見られたことを踏まえての出題である。
- ・表現の技法を理解するためには、文章中の具体的な表現に即して、表現技法の名称を確認し、その効果について考えることが大切である。その上で多様な表現の技法について体系的に整理することが重要である。
- ・具体的な言語活動については、平成24年度の授業アイデア例を参考にすること。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」30～33ページ

②語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う＜指導事項・伝国1年(1)イ(ウ)＞

A9三

次のアからオの文では、最も適切な言葉を、カの場合は、線部に当てはまる漢字として正しいものを、それぞれ（ ）の1から4までの中から一つ選びなさい。

ア	将来は、(1 気象 2 気性 3 起床 4 希少) 予報士になりたい。	97.4%
イ	<u>彼がこの討論の(1 火種 2 点火 3 火薬 4 口火)を切った。</u>	57.0%
ウ	私が先生のお宅に(1 承ります 2 いただきます 3 参ります 4 いらっしやいます)。	86.9%
エ	彼女は、学級の(1 縁 2 床 3 板 4 面)の下の力持ちと言える存在だ。	77.2%
オ	<u>(1 たてこもる 2 たちならぶ 3 たなびく 4 たたずむ)雲の間から、春の光がもれている。</u>	47.8%
カ	新聞を読むシュウカン(1 間 2 慣 3 刊 4 感)を身に付ける。	86.6%

- ・イについては平成20年度調査、オについては平成24年度調査と同一の問題。
- ・語句についての理解を深めるためには、辞書的な意味を基にして、文脈の中での意味を捉えることが大切。
- ・日常生活で使うことの少ない語句について指導をする際には、実際に使われている場面を取り上げてその意味を確認し短文を作る、別の表現で言い換えたりするなどの学習活動が有効である。
- ・使い分けが紛らわしい言葉を指導する際には、意味や用法を具体的な場面と合わせながら学習させることが大切である。
- ・指導に当たっては、平成21年度調査A8三、平成24年度調査A7三、平成26年度授業アイデア例を参考にすること。

③語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う＜指導事項・伝国1年(1)イ(ウ)＞

A9四

次の文章の ① と ② に当てはまるものとして最も適切なものを、あとの1から4までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

私は伝えたい内容が明確になるように、次のアの文をイの文に変えました。イの文の方が、器の色が特に目を引き付けたことが伝わります。これは「青い」という ① を、「青さ」という ② に変えて、主語にしているためです。

ア 大きな青い器が私の目を引き付けた。



イ 大きな器の青さが私の目を引き付けた。

1 名詞 2 動詞 3 形容詞 4 形容動詞

- ・「青い」に対する反応率は、
1名詞 (24.9%) 2動詞 (9.1%) **3形容詞 (61.5%)** 4形容動詞 (3.5%) である。
- ・「青さ」に対する反応率は
1名詞 (32.0%) 2動詞 (6.6%) 3形容詞 (23.8%) 4形容動詞 (36.5%) である。
- ・品詞の名称を理解していないこと、名詞がどのような文の成分になるのかということ、形容詞から派生する名詞についての理解していないこと、など様々な原因が考えられる。
- ・単語を正しく類別するには、具体的な文(章)を通して考えるように指導することが大切である。例えば、伝えたい内容を明確にするためにはどのような語順にすればよいのかなどについて検討させるとともにそれぞれの単語が文の中でどのような働きをしているかを考えさせることが重要である。

④手紙の書き方を理解して書く<指導事項・伝国1年(2)ア>

A9六 (正答率 60.7%・全国 58.2%)

- ・平成24年度調査【小学校】国語B1三(正答率 23.6%)において、手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題が見られたことを踏まえて出題された。
- ・「差出人が誰かを明確にするため、『松田 洋子』は、『十月一日』と同じ高さに書く。」の反応率が 20.7%であった。相手の名前と自分の名前のいずれかが上の位置にあるという思いから「1」を選択した生徒が多かったと考えられる。

六 次は、松田洋子さんか、職場体験でお世話になった小山健さんへ書いたお礼の「手紙の下書き」です。松田さんは、「手紙の下書き」の後付けの部分について正しく直すことにしました。直し方とその理由として最も適切なものを、あとの1から4までの中から1つ選びなさい。

「手紙の下書き」

拝啓

さわやかな季節となりました。お元気で過ごしてでしょうか。さて、先日の職場体験の際には大変お世話になりました。私たちの質問についてねいにお答えくださりましてありがとうございます。

最後になりましたが、皆様の御健康をお祈りいたします。

敬具

十月一日

松田 洋子
小山 健様

1 差出人が誰かを明確にするため、「松田 洋子」は、「十月一日」と同じ高さに書く。
2 相手に敬意を示すため、「小山 健様」は、「松田 洋子」や「十月一日」より高い位置に書く。
3 名前の方が重要なので、「松田 洋子」と「小山 健様」は、「十月一日」より高い位置に書く。
4 日付は重要ではない情報なので、「十月一日」は、「松田 洋子」や「小山 健様」と同じ高さに書く。

⑤代表的な古典の作品に関心をもつ＜指導事項・伝国1年(1)ア(イ)＞

A⑨七2 (正答率 65.6%・全国 66.7%)

- ・「竹取物語」の作品名を答える設問。
- ・古典の学習の際には、古典への興味・関心を深めることができるように指導することが大切で、漫画や絵本、映像メディアを活用するなど指導の工夫が考えられる。
- ・古典には様々な作品があり、それらの種類と小学校から親しんできた様々な古典とを結び付けることで、古典の世界についての興味・関心を喚起することができるように指導することが大切で、古典作品を紹介する言語活動などを通して作品の内容とともに 作品名などにも着目させることが有効である。

【参照】「平成 27 年度全国学力・学習状況調査報告書」47～60 ページ

中学校：国語B

(1) 話すこと・聞くこと／書くこと

- ①資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く＜指導事項・話すこと・聞くこと2年ウ＞
 ＜指導事項・書くこと1年ウ＞

B⑩三 (正答率 53.8%・全国 56.2%)

条件1 「A」の内容と結び付けて、理由を具体的に書くこと。

条件2 五十文字以上、八十文字以内で書くこと。

条件1 「A」の内容と結び付けて、理由を具体的に書くこと。

条件2 五十文字以上、八十文字以内で書くこと。



実際にオカリナを演奏する

条件1 「A」の内容と結び付けて、理由を具体的に書くこと。

条件2 五十文字以上、八十文字以内で書くこと。

条件1 「A」の内容と結び付けて、理由を具体的に書くこと。

条件2 五十文字以上、八十文字以内で書くこと。

1 森田さんは、国語の時間に、自分の特技についてスピーチをする学習に取り組んでいます。次は、発表の際に使用する「A」と「フリップ」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(「A」と「フリップ」にある①から③は、発表の際に使う順番を表します。)

(注) フリップは説明に用いる、図や絵、言葉を書いた大型のカード。

【フリップ】

1 **オカリナとは**

- ハトに似た形の笛
- イタリア生まれ

イタリア語では「小さなガチョウ」

2 **オカリナの特徴**

吹き口、音色は？、材質は？、指穴の数は？

3 **気軽に楽しめる**

- リコーダーと似た指使い
- 持ち運びやすい大きさ
- 簡単な曲ならすぐ吹ける!!

【ノート】

発表の流れ	その他の情報 ※ 状況に応じて使用する
■ 聞き手を見てから話し始める ○ 始めの言葉	
1 ○ オカリナはハトの形に似た楽器。 ○ イタリアで生まれ世界に広まった。 ○ イタリア語では、「小さなガチョウ」という意味である。	※ ガチョウの頭の形に似ている。体の形に似ているなど様々な説がある。
■ 問いかけて問を置く	
2 ○ 材質は？→素焼きの陶器のものが多い。 ○ 音色は？→吹き口から息を吹き込むと、温かみのある音色が出る。 ○ 指穴の数は？→12個が多い。(表側に10個、裏側に2個)	※ プラスチックのものもある。 ※ イタリアでは、10個が多い。
3 ○ リコーダーと同じような指使い。 ○ ポケットに入るくらいの大きさ。 ○ 簡単な曲なら、すぐ吹けるようになり、吹ける曲が増えると、ますます楽しくなる。	※ いろいろな形や大きさのオカリナがある。
■ 質問がないか尋ねる ○ 終わりの言葉	

- ・言語活動の充実が進み、ポスターセッション、プレゼンテーションなど調査したことを口頭発表する機会が増えている。国語科においては、より実践的な学習をすることが求められている。
- ・「4年間のまとめ【中学校編】」では、資料の提示の仕方を工夫し、その方法を説明することに課題があると分析している。そこで本問では、目的や状況、相手に応じて効果的に資料を提示する工夫について、その理由を根拠をもって説明することを求めている。
- ・正答の条件は① AとBのいずれか一つの〈演奏するタイミング〉を選んで、その記号を塗り潰している。② 【ノート】の内容と結び付けて、〈演奏するタイミング〉を選んだ理由を具体的に書いている。③ 五

十字以上 八十字以内で書いている。の3点である。

(正答例)

フリップ②のときにオカリナを吹くところを見れば、吹き口への息の吹き込み方や、指穴を押さえる様子がよく分かり、興味をもってもらえると思う。

ノートと結びつけている

■ 問いかけて聞か置く	
② ○材質は?→素焼きの陶器のものが多い。	※ プラスチックのものもある。
○音色は?→吹き口から息を吹き込むと、温かみのある音色が出る。	
● 指穴の数は?→12個が多い。	※ イタリアでは、10個が多い。
(表側に10個、裏側に2個)	

・このうち②を満たしていないため、誤答になっているものが36.9%いた。

(誤答例①) フリップ②と③でオカリナについて説明しているため、その説明を聞いてから演奏した方がより伝わると思うから。それに最後に演奏した方が印象に残ると思うから。

…<演奏するタイミング>を選んだ理由を【ノート】の内容と結び付けて書くことができていない。

(誤答例②) なぜなら、②はオカリナの温かみのある音色や陶器などの材質を説明していて、③は発表のまとめの働きをしている。よって②のタイミングの方がよいから。フリップ③で、リコーダーと同じような指使いであることや、簡単な曲ならすぐ吹けるようになることを説明しているからです。

…<演奏するタイミング>を選んだ理由を具体的に書くことができていない。

- ・スピーチ等をする際には、話の要点を明らかにし、聞き手の理解を促すために資料を効果的に活用する必要がある。どのような資料をどのタイミングで提示するのか考えること、また発表後になぜそうしたのかという理由を互いに説明し合い、その効果を確認することも大切である。
- ・指導に当たっては平成22年度授業アイデア例を参考にすること。

(2) 書くこと/読むこと

①文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える<指導事項・読むこと1年イ>

B2 (正答率 68.0%・全国 67.8%)

4 人の移動を支援する搭乗型ロボットが、身体機能の回復のために役立つように、日本で改良されているということ。

3 装着した人の意思を読み取り身体の動きをサポートする装着型ロボットの開発が、日本で進められているということ。

2 空港でのパトロールなどに使用されている搭乗型ロボットが、十年以上前に、日本で初めて開発されたということ。

1 ハビリテーションやレスキュー活動などを支援する装着型ロボットが、日本では既に普及しているということ。

【B】 日本の人口推移を表したグラフ

※ 棒グラフの上の数値は総人口を表す。
※ 高齢化率=65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合。

(総務省ウェブページによる。)

【C】 雑誌の記事の一部

生活を支援するロボットの開発

世界では、様々なロボットの開発が進められている。例えば、人の移動を支援する搭乗型ロボット。このロボットの中には、10年以上前から実用化されているものもあり、空港でのパトロールなどに使われている。

現在、日本では、「生活支援ロボット」の開発が行われている。誰でも簡単に乗り降りでき、日常生活での移動を助ける搭乗型ロボットの開発に加え、装着型ロボットの開発も進んでいる。これは、装着した人の意思を読み取って身体の動きをサポートするロボットである。身体機能の回復のためのリハビリテーションなどで既に一部導入されているが、今後は、足腰の弱った人の歩行支援、重たい荷物の持ち上げ、レスキュー活動など、幅広い場面での活用が期待されている。

このように、人間の生活を支援するロボットの開発が、日々進められているのだ。

搭乗型ロボットの例

装着型ロボットの例

【2】 次の資料は、「A ウェブページの文章」、「B 日本の人口推移を表したグラフ」(予想を含みます)、「C 雑誌の記事の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔A ウェブページの文章〕

(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ウェブページによる。)

(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ウェブページによる。)

(注1) インフラ=インフラストラクチャーの略。道路、鉄道、学校、病院など、社会生活の基盤となる構造物の総称。

(注2) イノベーション=技術革新。これまでとは異なった新しい発想。

(注3) インスピレーション=ここでは、オリンピックやパラリンピックがもたらす刺激のこと。

(注4) IOC総会=国際オリンピック委員会の会議。

- ・情報に対してあらかじめ目的をもって接することもあれば多様な情報に触れながら問題意識をもったり新たな発想を得たりすることもある。変化の激しいこれからの社会を生きていく中学生には、こうした情報活用能力も必要である。
- ・本問では、東京オリンピック・パラリンピックに関するウェブページの文章、日本の人口推移を表したグラフ、ロボットの開発に関する雑誌の記事を取り上げ、資料を読んで、書かれている内容を正確に理解することに加え、複数の資料を取り上げて、近未来の日本の社会を予想し、その社会への自分の関わり方を具体的に書くことを求めている。
- ・解答類型「1」の反応率は11.2%、解答類型4の反応率は11.7%である。これらは、文章の「搭乗型ロボット」について説明している部分と「装着型ロボット」について説明している部分とを読み分けられず、要旨を的確に捉えられなかったものと考えられる。

②複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く <指導事項・書くこと2年ウ>
<指導事項・読むこと2年オ>

B②三 (正答率 24.0%・全国 23.0%)

- ・平成24年度調査【小学校】国語B③四では、複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつこと(正答率38.1%)に課題が見られたことを踏まえた出題。
- ・正答は次の条件を満たしているもの。
 - ①【Aウェブページの文章】【B日本の人口推移を表したグラフ】【C雑誌の記事の一部】の中からいずれか二つを選んでいる。
 - ②選んだ二つの資料の内容を適切に取り上げて書いている。
 - ③2020年の日本がどのような社会になっているかを予想して具体的に書いている。
 - ④社会にどのように関わっていききたいかを具体的に書いている。
 - ⑤「二〇二〇年の日本は、」に続けて、八十字以上百二十字以内で書いている。

(正答例) (二〇二〇年の日本は) オリンピック・パラリンピックの影響で様々なスポーツに注目が集まるだろう。今後増えていく高齢者もスポーツに関心をもつと思われる。そのような社会に、私は、スポーツ関連のボランティアをすることで積極的に関わっていききたい。

- ・条件④を満たしていないものが43.4%であった。

(誤答例) (二〇二〇年の日本は) 東京オリンピックが開催され、世界から多くの人々がやって来て、世界とのつながりが広がる素晴らしい社会になっていると思う。だけど、少子高齢化で大変な社会だとも思う。

(二〇二〇年の日本は) 高齢化が進んでいくと考えられる。そうなれば介護を必要とする人が増え、身体の動きを支援する装着型ロボットが幅広く活用されることになるだろう。自分もこれからの社会に関わっていききたい。

- ・・・このように解答した生徒は、2020年の社会にどのように関わっていききたいかを具体的に書くことができていない。

- ・多様な情報に触れながら問題意識をもったり、新たな発想を得たりするためには、複数の本や資料から得た情報を通して、自分が考えたことを明確にしていくことが大切である。その際、必要なことは
 - ①それぞれの資料に書かれていることを正確に理解した上で、資料相互の関連性を整理すること
 - ②それらの資料と自分の考えとのつながりを確認したりすること
 の2点である。

- ・また、自分の考えを深めたり広げたりするためには、学校図書館(書籍や新聞)やインターネットなどを利用し、主体的に情報を探していく学習活動を取り入れた授業を構想することが効果的である。

【参照】「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」67～74ページ

③文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く<指導事項・書くこと1年ウ>

三 あなたは、二〇二〇年の日本は、どのような社会になっていると予想しますか。また、その社会にどのように関わっていききたいと思いませんか。あなたの考えを、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてかまいません。

条件1 資料「A ウェブページの文章」「B 日本の人口推移を表したグラフ」「C 雑誌の記事の一部」の中からいずれか二つを選び(どの資料を選んでもかまいません)、それらの内容を取り上げて具体的に書くこと。

条件2 「二〇二〇年の日本は、」に続けて、八十字以上、百二十字以内で書くこと(解答用紙に書かれている書き出しの字数を含みます)。

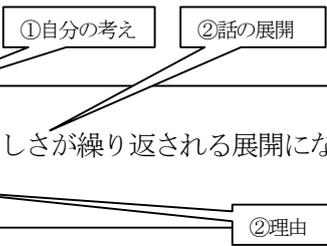
B3三 (正答率 29.5%・全国 31.1%)

- ・文学的な文章は、内容の面白さだけでなく、表現の工夫にも着目することで、文学的な文章を読む楽しみが増し、読書を促すことにつながる。
- ・本問では、表現の工夫について自分の考えをもつことと、話の展開を根拠に、立場を明確にして自分の考えを述べることを求めている。
- ・「4年間のまとめ」では、文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題があると分析している。そこで本設問では、本文の最後の一文があった方がよいか、ない方がよいかについて、根拠を明確にして自分の考えを書く力を問うた。
- ・正答は以下の条件を満たしているものである。

- ①最後の一文があった方がよいか、ない方がよいかを明確にして、自分の考えを書いている。
- ②話の展開を適切に取り上げて、理由を書いている。
- ③五十字以上、八十字以内で書いている。

(正答例)

最後の一文はあった方がよいと思います。
 なぜなら、最後が真っ暗闇で終われば、暗闇の恐怖しさが繰り返される展開になるため、読み手の恐怖感が一層増すと思うからです。



- ・条件②を満たしていないものが、55.6%である。
 (誤答例) ○最後の一文はない方がよい。なぜなら「のっぺらぼうとなった」というところで終わった方が、話が面白いから。・・・話の展開についての記述がない。
 ○女の顔には眼も鼻も口もなく、男は悲鳴をあげて逃げ出して、遠くに辛うじて蛍の火ぐらいの大きさに見えたものを屋台の火だと思ったのであった方がよい。
 ・・・理由が書かれていない。
- ・文章の展開について自分の考えをもつためには、作品の全体像を捉えた上で、場面の役割等を分析的に考える必要がある。例えば、この場面がなかったらどのように作品全体の印象が変わるかなどについて、根拠を示しながら書く学習活動が考えられる。その際、考えを支える根拠が明確に示されているかどうかを検討することが大切である。

③ 次の文意は、小泉八雲が英語で書いた怪談「鴉」の翻訳の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(「こまごまのあらずし」 東京の赤坂にある紀伊国坂は、昔、日が暮れた後は人通りが少なく寂しい場所、人を化かす「鴉」という生き物が出没すると言われていた。そのため、人々は日没後、一人でこの坂をのぼるよりも、回り道をしたものだ。ある日の夜、急ぎ足で紀伊国坂をのぼっていた一人の男が、お濤のそばで若い女がうずくまって泣いていることに気付いた。男は心配して若い女に声をかけたが、返事はない。

(小泉八雲「鴉」による。)

(注1) 小泉八雲：明治期の小説家、英文学者。旧名ラファエロ・ハイン。
 (注2) お女中：当時の女性の敬称。
 (注3) 突撃：突進や言葉遣いが冷淡でとげとげしい様子。
 (注4) 追刺：追行人をおして衣類や品などを奪うこと。また、それをやる人。

三 中学生の山田さんは、以前に読んだ昔話「のっぺらぼう」の最後は、番麦屋がのっぺらぼうになったところで終わっていたことを思い出しました。あなたは、「鴉」の「……そして、それと同時に、屋台の火も消えた」という最後の一文は、あった方がよいと思いますが、ない方がよいと思いますか。あなたの考えとその理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。
 なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 最後の一文があった方がよいか、ない方がよいかを明確にして書くこと。
 条件2 話の展開を取り上げて、理由を書くこと。
 条件3 五十字以上、八十字以内で書くこと。

(小泉八雲「鴉」による。)

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

(1) 課題解決的な言語活動を設定した授業づくり

- ・国語科は付きたい力を教えるのではなく、言語活動を通して、指導事項を指導し、付きたい力を付けていく教科であるので、基礎基本の積み上げだけでは活用する力は高まらない。ゆえに単元を貫く課題解決的な活動（言語活動）を設定した授業実践の一層の充実が必要である。

- ・単元を構想する際、付きたい力とそれにふさわしい言語活動、教材はどのようなものを適切に判断することが求められる。そのために、

①マトリクス型の年間指導計画を作成し教材と指導事項を確認すること

②学習指導要領の言語活動例の確認すること

の2点については年度の始まるまでに行っておく必要がある。

- ・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」を参考にすることも非常に有効である。



「単元を貫く課題解決的な活動（言語活動）」を設定した単元の授業時間（平成25年度実施分）

	0～50時間	51～80時間	80～104時間	105～139時間	140時間以上
第1学年	32.4%	28.7%	24.3%	8.1%	6.6%
第2学年	32.6%	28.7%	23.3%	9.3%	6.2%
第3学年	37.2%	38.8%	16.3%	7.0%	0.8%

3つの要素の関連を考えた単元づくりを！

授業改善のために全国調査の問題やアイデア例を利活用を！

「授業アイデア例」は、全国調査の結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、作成されている。平成21年度から、学校に配布しているもので、国立教育政策研究所ホームページからもダウンロードできる。

(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- ・必要な情報を素早く見付ける読み方や、必要な部分のみを詳細に分析する読み方等を経験させるような指導が大事である。そのためには、多様な図書資料等を用い、目的に応じた読み方を身につけさせる活動の充実を図ることが必要である。
- ・「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」の指導改善のポイントに次のようにある。

読むこと

○多様な情報に触れながら、自分の考えをもつ指導の工夫

- ・多様な情報に触れながら問題意識をもったり新たな発想を得たりする力を身に付けるために、複数の本や資料から得た情報について、その真偽や適否を見極めるとともに、書かれている内容を自分と結び付けて考えるように指導する必要がある。また、学校図書館やインターネットなどを利用し、目的や意図に応じて主体的に情報を収集する学習活動を取り入れることも大切である。このような学習の積み重ねにより、幅広く読書を行うことの意味を一人一人が実感できるように指導する必要がある。

「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」9ページより

このことから、授業における多様な図書資料を利活用する必要があることが分かる。

- ・例えば、学習指導要領の言語活動例を参考にして、情報を活用し、条件に応じて自分の意見や考えを表現する活動の充実を図るとともに、考えを深めたり広げたりする「交流」の場を単元の中に効果的に位置付けることが必要である。

例 本の帯やポップ作り ブックトーク ポスターセッション

- ・「漢字の読み」や語彙量に課題が見られる生徒、まとまった量の文章を素早く読むことが苦手な生徒の学

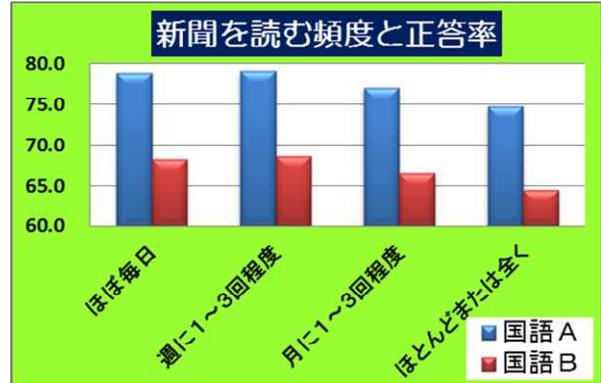
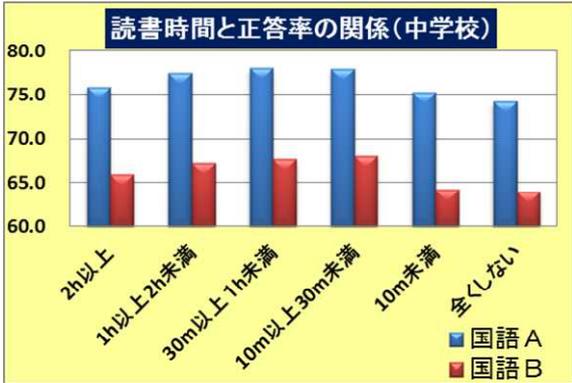
力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。本県の中学2年生における不読者は、昨年度から微減したものの依然として非常に高い水準である。一斉読書や教科の授業中に図書館の利活用を推進する中で、様々な種類や内容の書籍に触れさせる指導も必要である。

- また、自分の考えを深めたり広げたりするためにも学校図書館等を利活用し、多様な情報を関連づけて読むことに指導に当たることが大切で、新聞等のメディアも有効な教材と言える。

・本調査のクロス集計を見ると読書時間及び新聞を読む頻度と教科の力にある程度の関係性が見られる。

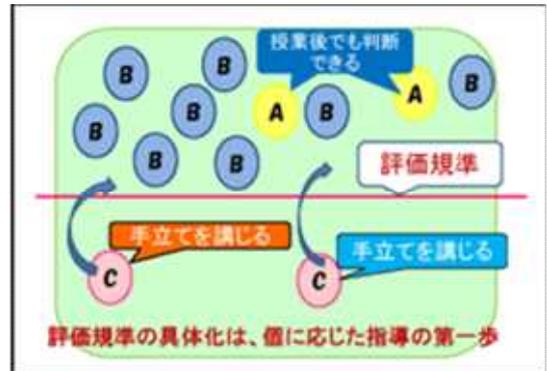


一斉読書や図書館の利活用は重要！



(3) 「めあて」の設定や指導にいかすことができる「より具体的な評価規準」の設定

- 単元の評価規準→指導過程の評価規準→本時の評価規準という道筋で、より具体的な評価規準(概ね満足できる状況)を設定することが求められる。
- この具体的な評価規準から本時のめあてを設定すること
- また、評価規準に基づき、「C 努力を要する状況」の生徒を見極め、「B 概ね満足できる状況」になるよう効果的な支援を行うことが必要である。
- 「授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示された」生徒や「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行った」生徒ほど平均正答率が高い傾向がある。学習の見通しをもたせ、学習の意味づけをさせることが有効と言える。



(4) その他、国語科授業で取り組むべきこと

①主に「知識」に課題がある場合に求められる工夫

- 記述する力を高めるために様々な場面で「書く」活動を設定する。

記述の指導は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域1事項に係る様々な活動を効果的に関連させることが重要である。

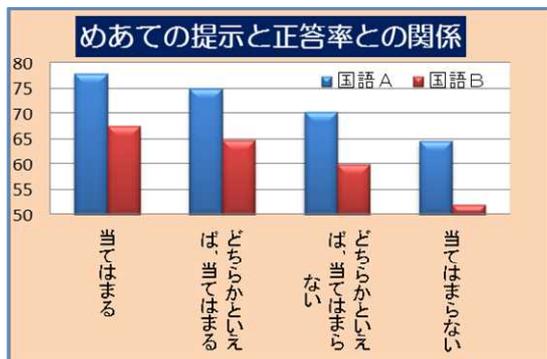
例(話す聞く) インタビュー等の取材メモ、スピーチ原稿等

(書くこと) 鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文

(読むこと) 文章を読んで解釈し、自分の考え(感想や意見、評価、批評等)を明確に書くこと。目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

②主に「活用」に課題がある場合に求められる工夫

- 条件に即応して記述しなければならない場面を設定する。



時間・字数・文章の形態や種類・文体（常体・敬体・一人称・三人称等）・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法（反復・倒置・比喩・反語等）・構成等条件を踏まえる必然性のある活動を設定する。

書くこと

○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く指導の工夫

・事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように書く力を身に付けるために、分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで書いたりするように指導する必要がある。その際、書いた文章を互いに読み合い、内容に過不足がないか、使用している語句は適切かなどについて検討するように指導することが大切である。

○根拠を明確にして自分の考えを書く指導の工夫

・根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く力を身に付けるために、自分の考えの根拠が明確に書かれているかどうかを吟味するように指導する必要がある。その際、根拠となる内容が適切に取り上げられているか、接続語の使用や段落構成の工夫などによって、読み手に対してどの部分が根拠であるかが分かるように示されているかなど、文章を複数の観点から見直すように繰り返し指導することが重要である。

「平成27年度全国学力・学習状況調査報告書」9ページより

③その他、授業改善の参考にすべきこと

- ・全国学力・学習状況調査の問題や公立高校入試の問題を教材化して単元を構想する。
- ・平成26年度3月刊行の「中学校国語科指導資料」を参考に単元を構想する。

(5) その他、学校全体で取り組むべきこと

- ・漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠。特に漢字は一度覚えても使わなければ忘れてしまう。繰り返し学習できる環境を学校全体で整えることが大切である。国語科だけでなく、各教科のノートや生活ノート、学級日誌等、様々な場面での指導が望まれる。
- ・全校一斉読書や各教科及び領域における学校図書館の利活用。様々な力を下支えするものとして、活字に親しむことが必要である。その際、文学的文章だけでなく様々なジャンルの本を選ぶように指導する（あるいは、その環境作りをする）必要がある。3年生になって、読書活動の時間をなくす学校もあるが、目的に応じて短時間の読書活動を行うことが望ましい。その際、本だけでなく、新聞、インターネット、テレビ、ラジオ等の様々な情報を利活用することも求められる（【例】各新聞社から配信されるワークシートを行う）。そのために、国語科だけでなく、各教科や領域において、図書館の利活用の推進をしなければならない。

新聞社作成のNIEワークシート（写真は大分合同新聞社のもの）

多くの新聞社（中央紙、地方紙ともに）が新聞記事を使った様々なワークシートを作成している。また、それらを手入手する方法も様々である（サイトからダウンロードする、登録して配信サービスを受ける、販売店から届けてもらう）。無料のものも多いので、利活用しやすい。内容も様々であるので、発達段階に沿って利用もできる。言語活動の練習教材として、また読書活動の教材として活用ができると考えられる。